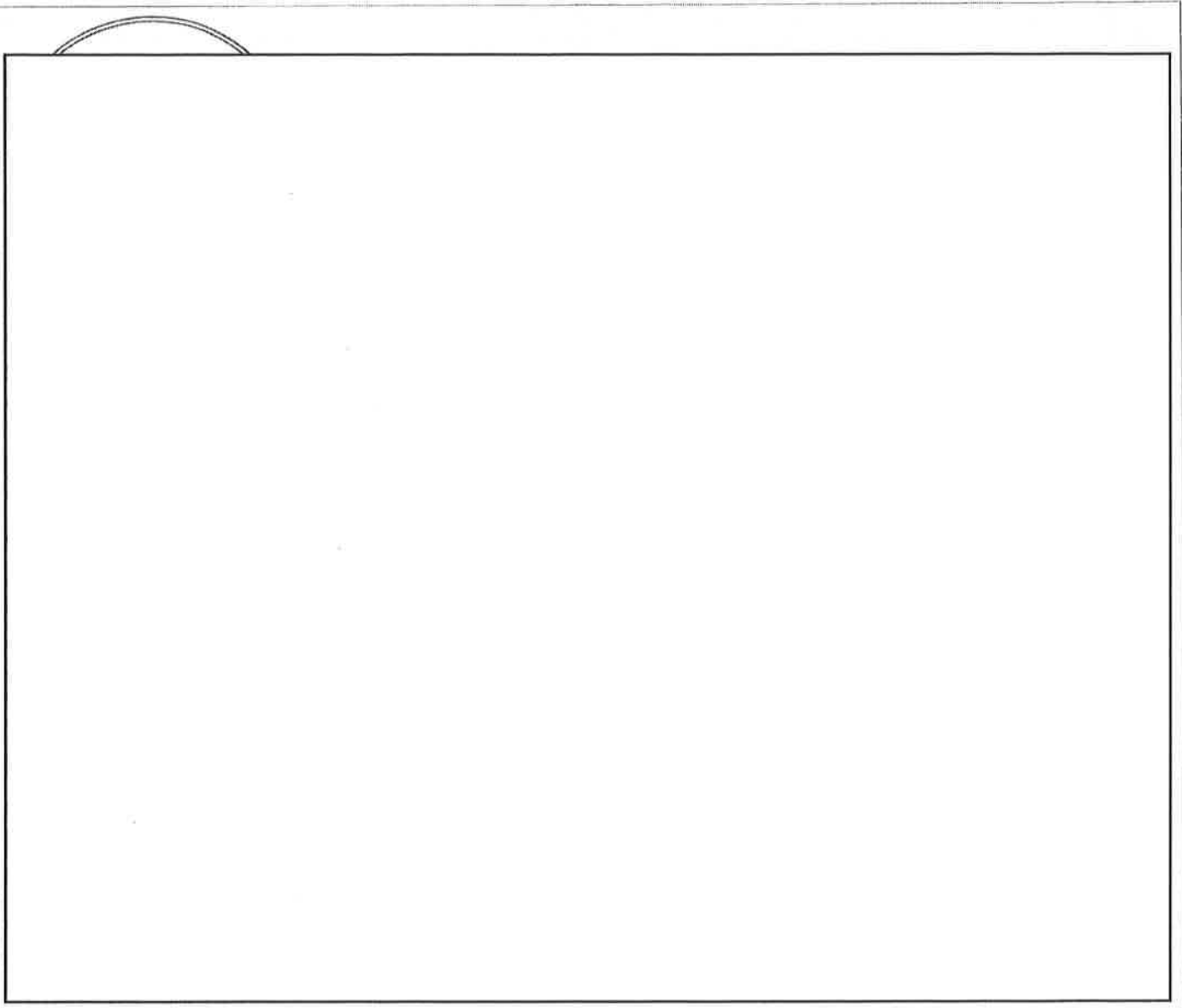


2005年8月15日 発行

2005年夏号

<第5号>

編集・発行/社会福祉法人ワークスユニオン 代表/山川 訓之 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881 FAX06(6556)0882 E-mail: union@h9.dion.ne.jp



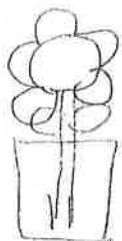
ワークスユニオンに来て  
思ったことについて

ぼくがこのワークスユニオンに来て、半年になりました。父が亡くなって半年になり、変わったことは、ゆつくりと時間がとれるようになりました。通勤時間もラクになりました。時間もとれるようになったことです。「港」だった時の友人がたくさんおるので、あんしんです。

でも、今年は(友人の)馬ちゃんが亡くなって、十年になりました。あの時は、いまは亡き父が電話できいたらしく、これを連絡網で回したらいいのです。これからも、ぼくの事をみまもっててください。

父のそうぎにきてもらって、ありがとうございます。

谷川 訓之



# ワークス集<sup>っどい</sup>は今

## もっともっと稼ぎたい

「ワークス集」は、二〇〇〇年四月一日に、「ワークス清川」として開所しました。現在は、ワークスユニオン事務所から歩いて行ける大正区三軒家東に、元鉄工所の三階建ての建物を借りて、ポルト組立作業をはじめ、アルミパットのバック詰め、工業用ブラシの計量など多彩な作業をしています。現在の利用者は、男十二名、女四名の計十六名(平均年齢三十四才)、職員は二名です。

ワークス集では、今年の五月から、ポルトナットの組み立て作業を開始しました。それも、皆が以前の施設で慣れ親しんでいた、ポルト会社から仕事を頂くことになりました。

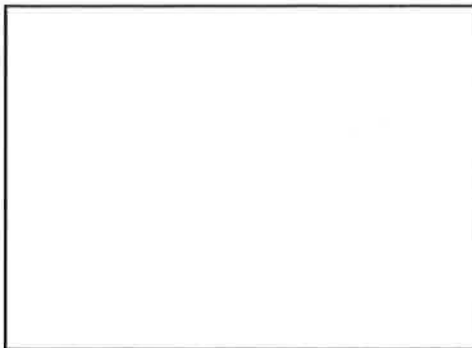
ポルトが大きなトラックでドラム缶いっぱい運ばれてくると、皆一斉に一階に駆け下りました。「あ、ポルトだあ!」「あ、きたきた、あれや、あれ。俺知ってんねん!」「前と一緒や!知ってる!知ってる!」と皆がそれぞれ声をあげていました。ポルトがトラックから下ろされると、素早くナットの箱を見つけ、

計る作業があるのですが、この検品を任されている彼は他の人が代わりに検品をした場合、もう一度検品をし直します。他の人を信用しません。自分より仕事が遅い人に対しては、いっさい認めない人もいれば、逆に自分のペースを決して乱さないこだわりを続ける人もいます。さらには、我こそは一番仕事を知っている!と自負して、あれやこれやと、勝手に仕切り始める人もいます。当然、衝突も起こったりするわけでした。「これは俺がやる、〇〇君はあつちやつて。」「遅いっ!もっと速くして!」「わかつてる、ちゃんとしてるわ!」

なんて会話も多々あります。私たち職員も、どうしたらもう少し協調性をもってもらえるだろうと考えたのですが、なかなか打開策が見つからないのも事実です。

「まあ、まあ、まあ、落ち着いて。」「まあ、まあ、

まあ、そんな事言わないで!」「まあ、まあ、まあ...」  
まあ、まあ、しか出てこない自分に無力さを感じる日も少なくありません。



しかし、こうした皆の自己主張のぶつけ合いも、違った見方が出来る時がありました。

秋に行われる『スポーツフェスタ』の参加を呼びかけていた時、今まで一度も参加したことなかったY君が、手をあげました。

「俺、今年は参加してみるわ。」  
次の瞬間皆がウォーという声と共に、拍手でY君のチャレンジ精神を称えま

した。(集のメンバーは頑張る人には一同団結して応援します。これは本当に見ていて気持ちがいいです。)  
実の所、何がY君にチャレンジ精神を生ませたのかは分かりません。自信と誇りと、強い自己主張が入り乱れる集の中で、Y君のチャレンジ精神が生まれたのではないかとそう感じたのでした。たとえそうでなかったとしても、私たち職員は、皆のすべてを受け入れプラスの面を導いていけるような環境をつくらなければと強く感じた時でした。

最後に一つ。ポルトの作業が増え、忙しい日々の合間に、O君がこんなメールを送ってくれた事がありました。

「ポルトの仕事たくさん仕上げたら工賃三万円超えるかもしれません。集の人は、やる時はします。就労訓練を受けられた人です。びつくりしましたか」  
(鳥居)

# 賃金を押し上げる

## 作業工賃と生活の隔たり

人はお金をかせぐために働きます。それは、授産施設であつても同じでしょう。それなのに、施設の作業工賃は押しなべてどちらも低い。とても生活が出来ない金額ではありません。その隔たりはなぜなのか、どうすれば補えるのか、頭を抱えています。

### ワークスユニオンの授産

施設の職員たちは、どうして作業工賃を上げるか、いつも苦闘しています。いずれの施設も、職員が真っ先に立って働き、利用者たちも黙々と努力を重ねるのですが、彼らが自前で生活を成り立たせるには、とても足りない額しかかせげません。先ずその実態からお話ししましょう。それでは――。

### 下の数字は、六つの施設の

昨年度の「一人平均の工賃月額と最高月額」で、賃金とは名ばかりの、驚くほどの数字ですが、これでも、授産施設のうちでは良い方でしょう。(エルチャレンジは区役所等の清掃作業です。)

組み込まれることを通して、利用者たちの意欲と能力を一層引き上げようとしたのです。

一方で、これは企業就労の言わば苦しまぎれの変形でした。一人では就職が難しかったから、集団でかかろうとしました。それでも未だ難しかったから、その集団へさらに職員をつけて、何とか企業へ入り込もうとしたわけですね。職員は、彼らのコーチ役で、企業から給料は支払われません。

話を元に戻して――。

### 施設の収益が低い理由は、

第一に、働き手の生産能力の低さが上げられるでしょう。もちろん当たる人物や職種にもよりますが、企業の場合、三人から時に五人で一人前の仕事に見合うというのが実状のようです。売上収益は生産能力に見合つて算出されますから、何ともいたし方ありません。次に、担当する職員の仕事の採り方と回し方の力量が問われるでしょう。

「会社で働きたい」と誰もが願っているようです。ほんの数枚の壱万円札を握り締めて、「コレ、おれが働いた金やねん」と訴える彼らを幾度も見てきました。会社で働く意義は、正にそこにあります。人に認められ、働きを評価されることで、彼らも私たちも生きる励みを手に入れます。

そして更にやはり、福祉の世話になる者は所詮出来が悪い、安く使つて当たり前という企業の偏見があります。普通以下と見られる彼らが、どんなにガンバってみても、自力でこの壁を越えるのは難しい。そこから、彼らに特有の、仕事のつまずきや人間関係のトラブルも生まれやすい。その壁を、何とか乗り越えるために、実は職員が送り込まれているのです。

ここに、ジレンマがあります。職員が居るから、施設の形をとるから、彼らは普通以下と見られる。しかしそうでなければ、彼らは企業へ入れないし、根を下ろせない。

「会社で働きたい」と誰もが願っているようです。

しかしその評価が、生活を賄うだけのものでなければ、とどの詰まり生きてゆく力にはならないでしょう。

### 「底上げ」が必要なのです。

生きる励みを得て、必死に生きようとする彼らが、普通以下の力であるなら、普通に見合う助成があつて当然ではないでしょうか。(山川)

2004年度作業工賃(単位・円)

施設名	平均月額	最高月額
和(なごみ)	21,800	32,600
歩(あゆむ)	29,600	35,400
集(つどい)	14,900	25,000
翔(かける)	29,800	37,500
匠(たくみ)	15,500	23,800
エルチャレンジ	39,200	49,600

# ヘルパーと過ごす 休日の楽しみ方

ワークスユニオンが、居宅介護事業所「ワークスユニオン家族支援」を立ち上げて、二年が過ぎました。

元来、ユニオンでは、休日の余暇支援を「余暇活動」というグループ活動を主流に、一対一や少人数を対象にした「個人活動」をおこなってききました。

グループ活動である「余暇活動」は、利用者がグループで楽しいことを共有し、自分たちで決め、そして支えあう、楽しみがあります。しかし、集団で活動するという事は、自分のペースを優先して行動ができません。

遅刻をすれば皆から「遅いやん」と注意されるし、歩くスピードが違えば、他の人の事も待たなければいけません。

皆と楽しいことが出来る反面、個人の思いや要望は出しにくくなります。

そこで、もっと個人個人

が自由に活動して欲しい、という思いから、家族支援でも「個人活動」に取り組みんでいます。

また、ユニオン全体としても個別の活動を大切にしたいとの思いから、グループホームは集団で行く旅行を取りやめ、好きな利用者同士でヘルパーと共に旅行に行ったり、五カ所の授産施設の一泊旅行は、施設ごとに希望を聞いて単独の計画を立てています。

ヘルパーさんと旅行に行くと温泉に浸かりながら、日頃の疲れを癒すのもよし、ビール片手にプロ野球観戦に行くのもいいですね。

実際、七月には、「花火大会」に好きな仲間たちで行きたいので、ヘルパーさんに付いてきて欲しい」という活動もしました。

仕事熱心なユニオンの利用者皆さんに、楽しい休日の活動を、ぜひこれからも利用して頂ければと思います。

(荒木)

## 職員紹介

### いりえなおこ 入江直子

彼女は、ユニオンの始まりを知る数少ない職員の一人です。当時は初々しかった彼女が担当していたのは、グループホームのご飯作りでした。その後、授産施設での経歴を経て、今では「生活」と「事務」の両方からユニオンを支えます。

洗濯は毎日、掃除は隅々まで、という彼女の几帳面さは有名で、髪の毛一本とて見逃さないとか。書類をいい加減に綴じようものなら、彼女に叱られてしまいます。

しかし、仕事以外ではなかなか腰を上げないギリギリ派で、旅行当日は準備に慌てふためく朝を迎えるそうです。

### くろかわゆかり 黒川縁

介護職からユニオンに来て半年、「ワークス集」の母的存在である彼女は、実際に子育てにも奮闘する、男の子二人の母でもあります。学生時代の部活仲間を今でも大切にし、休日は息子のクラブチームの応援と、まさに熱血母ちゃんです。

時には息子のマウンテンバイクを奪って通勤するという男勝りな姿も見られます。少々の失敗にはこだわらないおらかな彼女ですが、いま、集のフオークリフトの操縦に苦戦しています。遠い昔の運動神経は、あてにならないようです。

(野々村・内田)

### とりいたかし 鳥居隆史

第一号で紹介済みです。この春に集へ移りました。

## 編集後記

今年度に入り、ユニオンの授産施設「ワークス集」と「ワークス翔」は、大幅に作業の中身を変えているところで、仕事探しに街を歩いて会社やマンション、施設を訪問しても、門前払いがほとんどです。

運よく、話をきいてもらえるところがあっても、「おたくは障害者の施設やる、昔ひどい目にあつたからもういいわ」と厳しい意見を頂くこともあります。

ある時、いかにも大阪人という感じのサングラスをかけた社長が出てきました。思わず逃げ腰になっていた自分がいましたが、意外にも「何かないか声をかけてやるから頑張りや」と、低いダミ声で言われ、背中を冷や汗が流れながらも、ふと、心が暖まる思いをしたことがあります。

「信用」というものは、その場の言葉や行動だけでは簡単に得られない、という事を肌で感じる今日この頃です。だからこそ、「信用」を失わないために日々の努力が必要なのだと思えます。

また明日から、仕事探しに街に出かけてきます。(荒木)